

七尾市の定住促進等を学ぶ

総務常任委員会管外視察報告

委員長 谷 回 充希子

10月10・11日富山・石川県へ管外視察調査に行き主なもの概要を報告します。

◎氷見市民病院は医師看護師不足に伴い医業収支が悪化し不良債務が拡大、加えて病院の建物が老朽化していた。抜本的な改革をしなければ市民病院の存続が不可能な状況となっていた。市民の医療を守るため、病院経営の効率化と地域医療の維持・充実を図るため指定管理制度に移行した。

平成20年4月、金沢医科大



氷見市民病院の運営を聞く

学氷見市民病院となり民間の経営ノウハウにより自主自立の病院経営が行われ順調に推移し、23年9月には新築の病院となりました。

◎七尾市では定住促進の取組について学びました。都市生活者の移住促進やIUター

ン者に対する住宅施策が手厚く空き家バンクが創設されていました。不動産業者の仲介により円満に運営されている。また若者定住のための婚活・出会いサポート事業も行われていた。観光以外の交流人口拡大施策として教育、スポーツ合宿の推進も行われており、平成27年、北陸新幹線開業を見据えた構想も期待されていました。

◎珠洲市では空き家バンク、定住支援制度を視察。空き家バンク制度では七尾市同様、宅地建物取引業組合のサポートを得て登録物件調査や契約がなされている。空き家の売買や賃貸・空き

家短期滞在制度・空き家改修補助金制度等の要綱策定されていました。興味深かったのは短期滞在型「ちょい住み」事業で10日、20日、30日間のコースがあり、気に入った人は定住につながる可能性もある。



長野の空き家制度などを視察

産業常任委員会管外視察報告

委員長 高原 邦子

産業常任委員会では、前年度からの申し送りの懸案事項も踏まえて、調査研究項目を定めて活動しています。

平成23年に廃屋対策条例を制定し、市民の安心・安全な生活環境を希求しました。が、民間企業の調査で明らかになった市内に点在する多くの空き家の利活用が、人口減少・高齢化率に歯止めをかける上では重要であります。空き家から廃屋になることをできるだけ防ぐこと、また、高齢化に伴い、買い物弱者や交通弱者問題解決も喫緊の課題

である。と捉え、今年度の重要調査項目を「空き家対策」「交通弱者対策」と決め議論を深めてまいりました。

管外視察先は、このテーマに沿うべく飛騨市と類似した条件の先進地を選定し、8月19日20日に管外視察を行いました。

長野県の東御市では「空き家バンク制度と新交通システム」山梨県の山梨市では「空き家バンク制度」甲州市では「新交通システム」について説明・質疑応答を行い、先進地としての事例を調査しまし



道の駅狼煙で



東御市新交通システムを聞く

た。空き家バンク制度を導入前の取り組みから、実施後の現況や今後の改善点等の説明を受け、飛騨市での応用への参考にしました。視察後も当委員会では議論を重ね、議会基本条例に則り「空き家対策について」を議員全員による政策討論会を経て、市に政策提言をする予定にしています。買い物弱者・交通弱者問題に対応するため、新交通システムについては、視察で得られた調査項目の他、神岡町内で実施されたアンケートの結果や、巡回バスの利用状況を精査し、より市民の要望に沿うためにはどのように取り入れるのがよいのかを更に検討に加えて議論しているところです。